

■ IPEC21-2006へのお誘い

IPEC21実行委員会



IPEC21は今年で6回目を迎え、インテリアのプロフェッショナルと企業が協力し未来を切り開く交流の場として、最大級のイベントとなってまいりました。

「IPEC21-2006」のメインテーマは昨年に引き続き「ひと 環境 デザイン」です。今年は新たに『彩』をキーワードとして加え、内容の充実を計っています。

IPEC21はインテリアの総合展示会として開催していますが、今年から日本インテリアファブリックス協会主催のJAPANTEXとの同時開催となりました。今年の会期は1日増え、11月22日(水)から25日(土)までの4日間です。

会期中、同会場にて「すまい・建築・都市の環境展 ecobuild (エコビルド) 2006」が同時開催され、さらに、東ホールでは東京国際家具見本市も同時開催され、トータルに建築・インテリア情報を受発信します。設計業界、ファブリックス業界、家具業界及び各種クリエイターが一堂に集まることによりインテリア業界の活性化をはかり、また、一度にインテリアの全体像が見え、展示会やセミナーに参加し、有効な

時間を過ごすことができます。

セミナー詳細確認とお申し込みは

<http://www.ipec21.jp/2006/seminar.html>にて、

入場事前登録は<http://www.ipec21.jp/entry/index.php>

にて、行ってください。

(事前登録しますと、受付にて登録事項記載や並ぶ必要が無く、入場がスムーズです。)

会員の皆様のご来場とセミナーへのご参加をお待ちしています。

11/22 WED	13:00~14:30	西川りゅうじん氏 (マーケティングコンサルタント)
	15:00~16:30	中村拓志氏 (建築家 NAP建築設計事務所)
11/23 THU	13:00~14:30	小山裕久氏 (日本料理「青柳」主人)
	15:00~16:30	澤山憲子氏 (英国在住 インテリアデザイナー)
11/24 FRI	10:30~12:00	田中一雄氏 (環境デザイナー GK設計社長)
	13:00~14:30	川上玲子氏 (インテリア&テキスタイルデザイナー JID理事長)
	15:00~16:30	近藤康夫氏 (インテリアデザイナー)

■ 会員交流ツアー

ワサビはツユに入れず、ちょっとつまんで・・・」

会員交流ツアー・インテリアを楽しむ会2006「えーど!東京!」参加報告

佐藤勉 (正会員)



初参加の会員交流ツアー当日は、申し分のない行楽日和。五反田のデザインセンター前に集合した参加者は嬉々としてバスに乗り込み・・・ではなく、東急池上線の改札へ歩いて向かった・・・。今回の交流ツアーの目的地は「東京」。旅の原点に立ち返り、まずは我々の本拠地東京を再発見しようという、会員交流委員会荒井副委員長渾身の企画である。

1日目は「ものづくりの旅」。旗の台駅近くの「新興セルビック」へ。えっここが?と思わせる(失礼)建物外観に一同たじろぐ。しかしここぞ国内外に120以上の特許をもつ、プラスチック製品の金型製作においては世界最先端を走る工場。同社竹内社長の案内で工場を見学するうち、経済産業省ものづくり政策審議室長の前田泰宏氏が合流。日本のものづくりの将来に熱弁を振るう姿に、一同圧倒される。お昼は旬菜和食「ふじもり」の創作懐石を味わい、バス移動開始。次に「イヨベエ芸社」工場にて、家具作りの現場をじっくり見学。五百部社長と社員のものづくりにかける深いこだわりを目の当たりにする。休業日のところを我々のために振り替え

操業して頂いたとのこと・・・。アタマが下がります。戻りのバス道中は、宿泊部屋別対抗「江戸クイズ大会」を開催。趣向を凝らした荒井氏の質問に対し、「(答えに)感動がない」といったキビシイ指摘(笑)もあったものの、大いに盛り上がる。夕留のCONRAD東京に到着し、早速館内を見学。スイートルームや各階異なるEVホールの壁画に見惚れる。ホテル近くの中華飯店「潮夢来」での夕食会には紹興酒も回り、夢見心地で初日を終了。

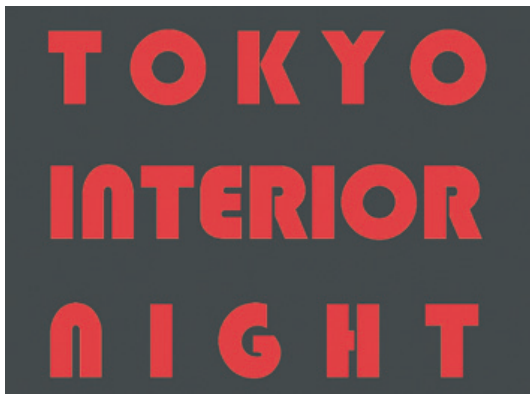
2日目は「文化の旅」。「ゴードンラムゼイat CONRAD」で遅い朝食をゆっくりと楽しみ、青山へ。蕎麦打ち名人の成田重行氏による2色蕎麦打ちの実演と話術に魅せられる。蕎麦生地をはじめは丸く、徐々に四角く伸ばしていく実演に対し、M女史の「はじめから四角くすればいいのに」とのスルドイ提案(笑)には名人も脱帽。続いて参加者が蕎麦切りに挑戦。個々の性格が素直に現れた成果品(写真参照!)を、会場提供ワイスイスさんの御好意で味わう。お昼は上野の不忍池畔にある「韻松邸」へ移動。池を見晴らす2階席の貸切間で、名物の三段弁当を戴く。その会場に真打の三遊亭京楽氏が満を持して登場。我々のために用意されたネタに大笑いし、新作人情話にしんみり聞き入り、心地よい余韻を残しつつ、2日間の旅の幕切れとなった。今後、蕎麦屋で正しい蕎麦の食べ方を熱心に説く会員がいたら、今回の旅の参加者と思ってまず間違いなし。

「ワサビはツユに入れず、ちょっとつまんで・・・」。



写真解説:

- 1) 蕎麦打ち名人、成田重行氏の2色蕎麦打ち実演を見る参加者。
- 2) 参加者の蕎麦切り成果品。名人も驚いた志村氏の分がけは下段に特別扱い。



11月22日より東京ビッグサイトで行われる「IPEC21-2006」の会期中、23日夜にインテリア系交流会を開催いたします。

日頃の業務ではなかなか難しい「横の繋がり」を作ること。また日頃出会えない人達との新たな人脈作りにはいかがでしょうか。開場内で行われている「DESIGNERS SHOWCASE」の出展者の参加の他、設計者・デザイナーを中心としたものとなります。展示されている各作品の経緯や背景、デザインの着想など、本人に聞かれるのもよいかと思います。

周囲の方をお誘いあわせの上、是非お越しください。
尚、円滑な交流を促進するため、できれば事前申込をしていただき、参加者リストを作成したいと考えています。当日参加も可能ですが、是非事前にお申込ください。

TOKYO INTERIOR NIGHT

日時：2006年11月23日（木）18:30～20:30（18:00開場）
場所：東京ビッグサイト 西ホールアトリウム内
会費：1000円（当日会場にて）
申込：氏名、会社名、メールアドレス、連絡先電話番号を明記の上、右記へお問い合わせも下記へお願いいたします。

竹村尚久
++Di Concept Design Office inc./
有限会社 ディーコンセプトデザインオフィス
++〒212-0023 神奈川県川崎市幸区戸手本町2-243-1-741
++MP:090-9381-7906
++ n.takemura@di-concept.com ++ <http://www.di-concept.com/>
++mixi: Di

■ 新しいJIPATの集いのお知らせです。

情報委員会と会員増強特別委員会と一緒に、新しいJIPATの集いを企画しています。皆様が、「協会に何を期待して、何を求めて入会された」のか、についてお伺いし、そのご意見を生かし、運営・活動に皆さんが参加しやすい協会へと変わって行くための、企画です。

お茶とお菓子程度ですが、ご用意いたします。集まって「気楽なおしゃべり」をしながら、ご意見をお伺いできればと考えています。『ちょっと一言良いですか』をキーワードに気楽にお話しし、楽しい集いとなり、かつ、良いご意見をたくさん集められればと思います。

この集いにご出席者いただく方は、最新の連絡名簿の50音、各音からひとり、と言うように選ばせていただきます。既に多くのイベントにご出席の方ではなく、あまりご参加頂いてない方になると思います。会場は、法人会員のショールームなどをお借りして、新しい情報もご提供いただく予定です。招待状の届いた方は、出来る限りご出席頂き、ご意見をお聞かせ下さい。宜しくお願い致します。

■ 町名由来板

10月23日（月）から29日（日）に“ちよだ・江戸祭り”が開催されました。江戸時代、神田神社の「神田祭」と山王日枝神社の「山王祭」はその豪華さや、行列が江戸城内に入り徳川将軍家の上覧を受けたことから「天下祭」と呼ばれていました。当時の「天下祭」では、神話や歴史上の人物をモデルにした人形などを取り付け山車を曳き回すことが特徴でした。江戸城下の町内から山車、屋台、造物やお囃子、踊りなどが練り歩き、「神田祭」では36台、「山王祭」では45台が江戸城下を順行し、その趣向が常に江戸で話題になったと伝えられています。しかし明治22年、中止となり、平成15年、江戸開府400年を記念して江戸天下祭が復活をとげました。この「江戸天下祭」は、〇五年から奇数年に隔年開催することが決定し、その間の年（今年）はその勢いをつなげる「ちよだ・江戸祭」が行われ、50万人の人出がありました。今回の『江戸天下祭』においても『山車・神輿順行』で、数々の山車・神輿の行列が長時間掛けて日比谷公園から皇居前広場をめざしました。同日から始まった山車人形・神輿展示には八王子市、栃木県栃木市、千葉県酒々井町、埼玉県本庄市など関東各地からの山車人形六体と千代田区一神町会の神輿、埼玉県川越市の郷土工芸品「山車雛（ひな）形」十台が集合。日曜の二十九日には丸ビル七階ホールで、江戸落語と和太鼓が競演する「お江戸寄せ合いフォーラム」や、区内の大学生による企画イベント対抗コンテスト「お江戸?ん（江戸1グランプリ）」、また、旧五街道から江戸文化の名残や歴史を探索しながら江戸城（皇居）を目指す「江戸登城ウォーク」など、多彩なイベントが行われました。



お江戸寄せ合いフォーラム



江戸登城ウォーク

■ 途中下車

長野県の飯田市に店舗改装のための石を探しに出かけた。その帰路ここには有名な皮を鞣す工場が有ることを思いついた。是非とも途中下車をしよう。デパート商法はいかにトラブルの少ない品を扱うかに神経を使っている、よくあるトラブルに、革張りのイスやソファで、衣服に革の色が移ったとなると一大事になる。そこで本店では革を扱う取引業者にこれから訪ねる、メルックス社の皮革を使うように一時期指定したことを思い出した。

原皮が置かれている倉庫から案内をしてもらいながら、皮革について私の知っていた知識が全て砕け散ってしまった。

最近シックハウスなど薬品による問題もあり、なめしも人体に影響の少ないクロームを使わないものを開発していて、これをウエットホワイトト呼び、クロームを使っているものをウエットブルーと呼んでいる。なめし工程が終わり一定の厚さになった革をドラムにいれ、回転させながら黒で下染をします。(下染をしないとミシンをかけた時ミンシ目が出てくる)

間違い1 "トラブルが少ないのは色を芯通している、つまり漬物を漬けるような染め方です"と説明していた。

乾燥は2通りの方法があり、真空乾燥 これは鉄板プレートに革を張り伸ばし、上からフードを降し中の空気を抜いて真空状態で短時間に乾燥させる方法で、高級家具に使われる。

ネット張り乾燥 手間はかかりますが、上等の子牛の革などは此の方法で乾燥させる。数人でネットにクリップで貼り付け乾燥させます。乾燥が終わった革を、風合いを出すため、もみほぐしをする。

その後それぞれの色に塗装をして、乾燥室に入れます。

間違い2、プレス工程 革の表面に金属型を使ってさまざまな模様を付けます。

(傷の有る革に模様をつけて傷を見せなくしますと説明していた)

カブラと呼ぶ表面加工した品は、野生の羊をイメージして型押しを作った商品で(現名ニューソフト)

現在この型押しの鉄板はドイツ、イタリア製で196枚あります。

最終段階でもまだ革をいじめます。空うちといい、突起のあるドラムに入れ、長い時間をかけ回転させながら、しなやかな風合いを出します。最後にロールアイロンをかけて仕上げです。

最後に厳重な品質検査があり、此の関門を無事通過すると計算機で面積を測定され、取引はデシ(10cm²)単位で行われます。

「なめす」ための「なめし剤」には、革の用途に合わせて様々な種類が使われていますが主流は、植物タンニンなめし、クロームなめしです。

【タンニンなめし】

タンニンを含んでいる植物は多数ありますが現在、使われているのは、南アフリカ産のミモザから抽出したワットルエキス、南米のケブラチヨから抽出したケブラチョエキス、欧州のチェスナットから抽出したチェスナットエキスでこれを単独で使用したり、混合して使用し「なめし」を行っています。なめされた革は、伸縮性が小さく、堅牢なのでケース、鞆、靴底など立体化する革製品に適しています。

【クロームなめし】

金属なめしの一つでなめし剤に塩基性硫酸クローム塩を使用します。この方法が最も多く用いられています。特性は、柔軟性があり伸びが大きく弾力があります。しかも耐熱性があり靴の甲革、袋物、服飾用など利用範囲が広い。植物タンニン革に比べなめし剤の結合量が少ないので軽く、吸湿性も大きい。



皮革になる牛の種類

牛の種類	通常呼称	目的	皮革用途	革にした時
黒牛	しもふり	食肉用	応接セット	油が多い
まだら牛	フォルスター	乳牛	靴・バック	あらかなる

塗装の種類

ウレタン仕上げ	ガゼイン仕上げ (卵からとった染料)	ラッカー仕上げ	カーボネート仕上げ
応接セット	婦人靴	ハンドバック	デスクマットなど
	伸ばすと風合いがある	手触りがよい	硬い仕上げ

■ 入退会者

入会者

正会員 中野忠雄氏

一般会員 石井良幸氏 板橋一広氏 柿沼整三氏 菅 隆士氏

黒川哲志氏 須田詠子氏 伏見佐幸子氏

■ 編集後記

東京インテリアプランナー協会では、3年に一度名簿を発行しております。来年は名簿の発行年になります。1月から順次会員の皆様に、名簿掲載内容確認の書面を配布いたします。皆様のご理解とご協力をお願いします。

編集長 井上 常雄